

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム えべつ ユニットA	評価実施年月日	H20年8月31日
評価実施構成員氏名	九島 智景 大嶋 きよ子 佐藤 知秋 松田 綾子 佐藤 真紀子 藤村 久子 藤村 健介 山崎 幸子 西村 恵		
記録者氏名	九島 智景	記録年月日	H20年9月16日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	地域の催しに参加する機会を増やしていく。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	やすらぎの生活を提供する上で、健康保持が重要な為、統一したケアを提供できるよう研鑽に努めていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	より多くの地域、ご家族の方にご理解いただけるよう更なる交流を図っていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	近隣地域住民と更に交流を深め、気軽にホームに立ち寄っていただけるよう努めていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	現在の交流を持続させたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	出来ることがあれば、入居者様を交えながら行なって行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフと理念を考えたり、消防訓練等の実施により意識を深めている。職員全員で分担協力し評価のまとめをしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>毎回、入居者様の暮らしぶり伝え、テーマに沿って意見交換をしている。</p>	○	介護職も会議に参加し、意見交換や地域の方などと交流を図れるようにする。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、入居情報を市に連絡している。</p>	○	市で行なう研修会などに参加するよう努力する。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修で学んだことをスタッフに伝達している。</p>	○	外部研修をはじめ内部研修の充実を図る。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修で学んだことをスタッフに伝達している。</p>	○	外部研修をはじめ内部研修の充実を図る。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約の際、高齢者の特性を説明した上、御家族の意向を確認しながら契約をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	声掛けを多く心掛け、人間関係を良好に保てるよう交流を図っている。運営会議には入居者代表として必ず参加していただいている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調変化の際は御家族に受診前後に連絡し、意向を確認した上で対応をし、結果報告をしている。金銭管理報告や広報で生活の様子を定期的に報告している。	○	高齢者である為、急変時の対応、終末時の対応などについてご家族の意向を再確認しながら体制づくりをしているところです。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している。苦情を受けた際は本部報告をし、改善に努めている。また、運営会議での意見を現場に伝え改善している。	○	意見箱は、より使いやすい工夫をしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、伝達や意見を聞いている。月に1回のユニット会議で本部の意向・連絡事項・検討事項等を伝え建設的に議論している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様へのサービスが適切に提供できる範囲で、職員の負担を増やさないよう各個人の希望も確認した上で配慮し調整している。各委員会、行事が円滑・安全に行なえるよう人員調整をしている。	○	状況に合わせた勤務調整が必要な為、各職員に状況を理解し協力が得られる様な関わりを心掛けていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員数の都合で2ユニット間の協力体制を取っているが、その際は入居者様に不安を与えないよう人選に配慮している。今の所なじみの顔が増えて入居者様に悪影響はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>運営方針に基づき新人研修、消防訓練、各委員会の運営し計画的に内部研修を企画、実施している。外部研修の情報を提供し、参加を促している。</p>	○	職員のレベルに合わせた内部研修を企画・実施し、ケアに反映していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市内のグループホームの会合等に可能な限り参加し情報交換や交流を図っている。場合によっては業務としての賃金対応をしている。</p>	○	勤務外になることが多いが、今後もより多くの職員が参加できるよう情報を伝え促していく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>その都度アドバイスがある。</p>	○	具体的な対応を明確にしたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>研修参加や資格取得を勧めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ホームの見学や茶話会の設定など体験サービスを提供する中で、ご本人との交流を図っている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご本人と同様サービスを提供し、コミュニケーションを図り不安の解消に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族のニーズと合致しない場合は、身体の状態なども含めて相応のサービスの情報を提供している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人、ご家族の同意の下、茶話会の設定などで他入居者様も含め交流を図り、スムーズな意向への配慮をしている。	○	御本人に合う雰囲気や相性が有るので1日体験入居の検討をしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中で料理や畑作業を通じ、一緒に過ごす事により喜びなどを共感できている。単に認知症介護と捉えず、全人的に関わり、信頼関係を築けるよう、関わりを多く持つ意識で話題づくりをしている。	○	認知症の知識習得や良好な人間関係を築くため自己啓発が出来るよう努めていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	プラン説明時や必要に応じホームでの様子、健康状態等の情報提供に努め、ご家族の状況などを聞き入れながらサービスの検討をしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様と御家族の接点が多く、持続できるよう、病院受診介助を依頼している。ご家族と話し合いながら、受診介助は臨機応変に行なっている。行事開催の際は、参加を促すご案内をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	受診外出の際、ホーム入居前の馴染みの職員に会ったり、友人宅へ寄り交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶会の時間には、まだ居室から来られていない方へ声をかけたり孤立する事がないよう職員が時には仲介し支えあうよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所の場合入院治療を要したり、その後死亡の為、関係を継続されるご家族は現在居ない	○	ご家族の同意を得ながら、入院中のお見舞いや死亡時の弔問などの対応をしていき、必要な時には気軽に立ち寄れるような関係作りを心掛ける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望、ご家族からの希望と情報を得てアセスメントし、より良い暮らしが出来るように努めている。困難なときは本人の視点に立ち、意見を出し合っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人・ご家族から情報を得てアセスメントし把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員一人ひとりが日常生活を共に過ごす事で、現状を把握している。小さな変化も見逃さないよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の生活の様子や、身体状態などから情報を収集し、ご本人にとって支障となっている物は何かを、ご本人・ご家族の要望も確認し介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画作成後、状態等の変化が見られた時はユニット職員内で検討し、見直しや追加をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝・夕の申し送りや連絡ノートに情報を書くことで、共通理解が出来ている。生活シートへ記入することで、計画にも生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の介護力や、状況に応じて通院・送迎等、柔軟な対応は出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	折り紙のボランティアが月1回の訪問あり。ご本人からの具体的要望は聞かれていない。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス利用は、実費になるため活用はしていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在のところ必要性はなく協働していない。	○	必要なときに速やかに対応できるよう、知識習得に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	兼務常勤看護師により、必要に応じカウンセリングを行なっている。必要に応じ、御家族の意向を尊重し、かかりつけ医院と連携をとりながら受診支援を行なっている。ご希望により月2回の往診対応をしている。		定期的な健康診断を定着させ、予防接種などを計画的に行い健康管理に努める。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	症状進行時等かかりつけ医の指示に基づき、専門医への受診支援をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	兼務常勤看護師が配置され、健康管理に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会、ご家族、病院関係者を介して入院中の情報を得ながら対応準備に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時や生活ぶり、身体の状態を確認した上で家族の意向を確認し、職員間で情報を共有する努力をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族の意向を確認した上で状態に合わせたサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人の健康状態、ADLや日常生活の様子を口頭または書面で情報提供している。また、認知状態に合わせて、移行の日時を決めている。</p>	○	<p>速やかに情報提供できるよう整備を進めている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄の事に関しては声のトーンを下げる、処置をする場合には自室やトイレなどで行なうなど基本に沿って関わっている。</p>	○	<p>基本に忠実に、いたわりの気持ちで接することを心掛ける。必要な研鑽を実施していく。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>認知症ケアの基本に基づき、ご本人の思いを受け入れた上、状況に合った対応をしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員によっては、入居者本位のケアが出来ていない。</p>	○	<p>継続的な研鑽を実施し対応の仕方を学んでいく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>女性であれば誕生会の日に御本人同意の上、化粧をしてあげたりの支援している。パーマなど希望に添えるように柔軟な対応の出来る美容室に委託している。洋服など衣類を購入の必要があるときはご本人と同行し、好みを尊重している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューにより職員と一緒に料理をしたり、配膳、茶碗洗い、茶碗拭き等をご本人の意思を尊重し行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族が持参の食品等は、本人管理の出来る方は自由に召し上がっている。自己管理できない方はご家族の意向に添って、職員が管理し提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	それぞれの排泄パターンを知り、排泄自立にむけた個々に合わせた誘導をしている。	○	排泄の自立に繋げ、生活の活性化を図れるよう支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の希望に応じ、入りたい時間、頻度を確認し、入浴できるよう声かけし提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし、夜間の安眠に繋げるよう各人に合わせた運動を行なっている。日中も状況に合わせて午睡を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	茶碗洗い、茶碗拭き、箸の準備、畑の作業など個々に合わせた役割を同意の下、していただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員管理により、買い物に同行支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物同行・外気浴等ご本人の希望に添い出かけている。	○	ご本人の体調がよい人は、声がけし冬になるまでは、散歩・外気浴・買い物同行、食事会レクなど取り組んでいる。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	買い物同行、食事会、イチゴ狩りレクなど御家族にも声がけし、ご家族と共に楽しんでいる。ご家族の協力の下、自宅への外出、外泊もされている(必要時送迎の支援もしている)		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の訴え、寂しさ、不安がうかがえた場合は、状況に応じ、ご家族に電話を繋げる支援をしている。手紙を書いている方もいるので、通信の支援をしている。	○	個々にあわせた支援を続けていく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	それぞれの家族・友人・知人は随時、訪問されている。	○	更に訪問しやすい環境づくりに努めていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないが、言葉の拘束に近い対応のときもある。	○	職員研鑽を行い、言葉の拘束についても意識確認をしていく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯(21:30~6:00)の玄関の施錠のみしている。入居者様の行動の見守りの必要性を理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	場合によっては、職員の見守りの出来る居室以外の場で入眠して頂いたり、個々に合わせた安全確保できる方法で支援している。定期的、必要時の見守りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物は置かない、職員の見守り可能なところで物品管理をしている。環境整備に心掛けている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故の発生したときは速やかに報告書を自発的に提出し防止策を講じている。事故防止対策委員会で事故の統計、分析を行い年2回の勉強会を通じて、職員にフィードバックしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変に遭遇した際、振り返りをして改善につなげている。救急対応の講習を受けていない職員もいる。	○	消防の救急講習に全員が参加する。または、計画的な研修計画を立て実施する
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	計画的に消防訓練に取り組んでいる。運営会議を通して消防、地域の人にも協力をお願いしているが確立していない。	○	具体的な地域の人との連携方法を確立したい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時、身体状況の変化時など、必要に応じて看護師である管理者からご家族に状況説明や疾患に基づく予測説明をし、ご家族の意向を確認し対応策について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	急変に遭遇した際、振り返りをして情報の共有化を図り、改善につなげている。急変時の観察シートにより、職員全員が観察ができ報告が出来るよう体制作りをしているところ。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の処方内容書は職員が確認できるよう整備している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘による弊害を理解し、個々に合わせた排便コントロール法を職員で検討し、飲食物など御家族の協力を得ている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	場合によっては歯科受診により口腔トラブルに対応し指導の下ケアにあたっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の好みを把握し提供し、水分チェック表により管理している。また、高齢者や糖尿病対応食の献立を立て提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	委員会を中心に整備し、学習会などにより、職員への周知を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルに基づき実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープや手すりが設置されており、靴の履き替え時には安全に行なえるよう、イスを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、廊下の壁には折り紙などの作品を展示し、季節に応じた作品を楽しめるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファや食卓に集い過ぎることが多い。居間には畳のコーナーや休憩用のベットが置かれ、職員の見守りの中、横になったりするスペースを設けている。	○	畳スペースを個別の体操やくつろぎの空間として、使いやすくなる工夫を考えていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みの物を持参して頂き、使用している。写真など思い入れのあるものを、見やすい場所に置いたり工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏は窓やドアを開けて空気の入替えを行い、冬は暖房器具の調節を行い温度・湿度計を設置し適温を保っている。必要に応じて、加湿器を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー設計、手摺りの設置により、安全に過ごしていただいている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご自身の物や物をしまう所には、名前や何が入っているのかを明示し解りやすくしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の横のテーブルや、イス、テントを設置し過度の日差しを防ぎ、快適に過せるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)